

平成五年 文部大臣年頭の所感

文部大臣 森山真弓

特集

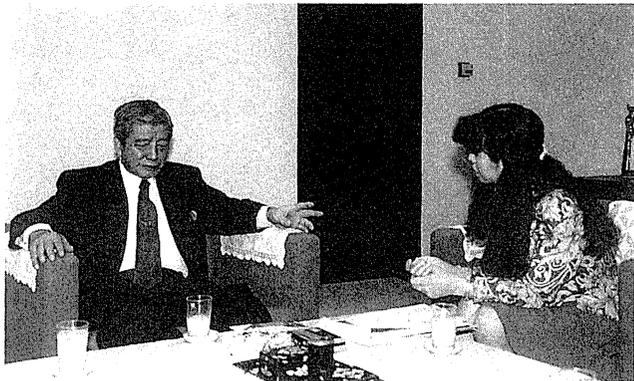
芸術文化支援の新たな展開

- 巻頭言 10 文化支援について思う
・鈴木治雄
- インタビュー 12 企業による芸術文化支援の方向性
・塚本幸一／(聞き手)日紫喜恵美
- 16 芸術文化支援に求めるもの
・森下洋子／(聞き手)有松育子
- 論文 20 「バブル後」の企業メセナ
・根本長兵衛
- 24 芸術文化支援の根底にあるもの
・倉林義正
- エッセイ 28 感性は「場数」で磨かれる
・残間里江子
- 事例紹介 30 地域に根ざした文化の振興のための実践
・(財)東洋信託文化財団
- 事例紹介 33 真に豊かでゆとりのある地域社会の実現を願って
・(財)よんでん文化振興財団
- 事例紹介 36 アマチュア・オーケストラ支援活動
地道に継続して12年 ・トヨタ自動車株式会社
- 事例紹介 38 芸術文化を通じた社会貢献について
・日本アイ・ピー・エム株式会社
- 事例紹介 40 郷土の未来のための黒子役
・林原グループ
- 事例紹介 42 芸術文化支援による地域文化の発掘
「ふるさと交響楽」づくりを中心に
・岩谷産業株式会社
- 資料 44 民間企業等による
芸術文化支援活動に関するデータ
- 46 芸術文化助成財団協議会会員一覧
- 48 芸術文化支援に関するQ&A
- 50 文化政策推進会議審議状況について

カラー

- 1 知の宝庫—博物館
屋久町立屋久杉自然館(鹿児島)
- 4 まつり風土記
八戸のえんぶり(青森県)
- 表2 名作シリーズ
四季山水図屏風
- 表3 文化財紹介
白山麓の積雪期用具
- 54 人・この道
那須武雄
- 55 教育・文化と地域づくり⑩
北海道上湧別町
- 58 焦点一文教施策
- 70 私の本棚から
尾上久雄
- 71 ことばの小箱／やさしい教育用語の解説
- 72 ニューススポーツ・レクリエーション
チュックボール
- 74 ふるさとのうた
最上川舟唄
- 76 科学のひろば
国文学研究資料館②
- 78 海外教育ニュース
- 80 郷土に生きる教育家群像⑬
福岡県
- 84 編集後記

Interview



●聞き手

ソプラノ歌手

日紫喜恵美

株式会社ワコール会長 塚本幸一

企業による
芸術文化支援の方向性

企業経営と文化のかかわり

日紫喜 近年、企業の芸術文化への支援活動が目立ってきています。本日はそのような活動に積極的に取り組んでいらつしやる株式会社ワコールの塚本会長にお話を伺いたいと思います。まず、会長が芸術文化支援に携わられるようになった契機についてお話しいただけますか。

塚本 日本が戦後、経済的再建を果たす中で私は偶然にも洋装文化の一角である洋装下着というものに興味を持つ機会がありまして、それを商売として始めて四三年になります。

まず、企業人としては、企業の発展とかそのために利益を上げるとか、それはもちろん重要なことですが、ある程度のゆとりができてくるに従って、それだけでいいのかという疑問が徐々に私の中に芽生えてきました。その中で、私が携わった洋装下着というものに関係して一つ考えたことは、日本にもともと何のルーツもない洋装文化を本場に確立していくためには、やはり、西洋の洋装のルーツをしっかりと勉強すべきだということです。そのためには、日本にコスチューム・ミュージアムのようなものをだれかがつくら

りましたが、おかげさまで、国際的にも非常に高い評価をいただいています。また、例えば、フランス革命以前の衣装を集めても、現代のマネキンではその時代と体型が違って、展示ができないわけですね。ですから、メトロポリタンと共同研究しまして、当時の一応の体格を全部衣服から想定して、時代に応じたマネキンを作りました。世界中にもそういうマネキンはなかったもので、各国のミュージアムにも現在七〇〇体余り、提供しているところなんです。このような事情で、ワコールの会社そのものよりも先に財団の方が服飾業界では名前が知られるようになりました。

日紫喜 海外での日本企業に対する理解の状況はどうですか。

塚本 七年前に、京セラの創業者の稲盛さん呼び掛けて、「現代日本画展」というのを計画し、日本の文化を世界に知ってもらおうと一年半をかけて、フランス、スウェーデン、スペイン、イギリス、アメリカとまわりました。どの国でも、この展覧会はワコールの販売とどうつながるかという質問を記者会見で受けました。しかし、まったく関係ありません。ただ私たちは日本の文化を皆さんに知ってもらおうと思って企画したのですとお話しますと、そういう考えを持った企業が日本にあるのかというような評価を受けました。

特集

芸術文化支援の新たな展開

なければならぬだろうと感じまして、昭和五〇年ごろからその構想を具体化し始めたわけです。

日紫喜 それが京都服飾文化研究財団の設立につながったわけですね。

塚本 昭和四九年に京都商工会議所の副会頭に選ばれました、私が提案してファッション産業特別委員会を設置しました。そして、第一回の行事として、デザイナーの三宅一生君の紹介で、当時ニューヨークのメトロポリタン美術館で開催されていた「現代衣服の源流展」という洋装の歴史についての展覧会を日本に持つてきました。こういった関係の展覧会というのは、日本のどこの美術館でも扱ったことはなかったのですが、当時の河北館長の御理解を得て、京都国立近代美術館でやりまして、大変な盛況でした。

そのときからワコールに服飾研究所を作りまして、そこでメトロポリタンだけでなくいろいろな美術館やコレクターの方から協力を得てコレクションを始めました。ちょうど時期が良かったのでしょうか、割合にいいコレクションができたと思います。その後財団申請を行い、昭和五三年に現在の京都服飾文化研究財団が設立されたわけです。財団ができてから、「浪漫衣裳展」や「華麗な革命展」をや

私としては、戦後の復興を経て、より立派な日本の礎をつくらなければならないと常に考えています。実際は、営利会社を営営しているわけです。しかし、営利ができれば文化支援はできないのです。文化というのはお金がかかります。ですから、まず、仕事はしっかりとやらなくてはなりません。

日紫喜 企業の経営と芸術文化のかかわりですね。

塚本 私が今盛んに考えているのは、日本が二一世紀にかけて、本当に世界から信頼される、あるいは敬愛される国家形成がもしできるとすれば、それは、例えば、商品には、機能性商品のほかに、文化的な商品、いわゆる付加価値商品というのがありますが、世界的に見て、芸術的な香りをもった商品が生まれるようになって初めて日本の産業経済に艶をつけると思いますか、深みをもちたすことになると思うのです。

時代が変わってきましたね、企業にも芸術性が求められるようになってワコールとしても一つの香りを出すために東京にスパイラルという複合文化施設をつくったのですが、これはワコールの名前をつけなかったことかえって有名になってしまいました。また、今までビル一つにしても効率性ばかり考えたものが中心だったのですが、東京の営業所のビ

ひしき・えみ 京都市立芸術大学大学院修了。昭和61年文化庁芸術家国内研修員。平成3年第29回バルセロナ国際コンクールライツプラノ賞ほか授賞歴多数。現在その活動が最も注目されているコラトゥーランプラノ。関西二期会会員。



塚本 例えば私はもうこれは個人的な嗜好もあるのですが、絵、特に印象派が好きですね。

日紫喜 私はオペラの仕事をしています。が、例えばオペラなどはやはり日本に根付きにくい西洋文化の一つだと思います。京都服飾文化研究財団の衣装を拝見したら、衣装、もちろんその下のファンデーションも含めてオペラのコスチュームと通じるところがあって、それで思いついたのですが、オペ



つかもと・こういち 昭和21年京都で和江商事を創業（昭和32年社名をワコールに変更）。昭和58年から4期京都商工会議所会頭。現在、(株)ワコール会長、(財)京都服飾文化研究財団理事長、(社)企業メセナ協議会副会長ほか。

ルは美的センスを重視してつくりました。こういうことがこれから重要だと思っています。

× セナ活動に望むもの

日紫喜 塚本会長はずいぶん前から文化の支援というか、服飾文化の振興に取り組んでいらつしやるわけですが、ここにきて例えば二、三年くらいまえから他の企業の中でも芸術文化に対する支援の機運が盛り上がりつつ、一種の流行のようになっていきます。このことについ

てはどのようにお考えですか。

塚本 今から四年前、日仏文化サミットというのがある、そこに出席したとき初めてフランス側から「メセナ」という言葉が出たのです。昔はパトロロンというのは、個人の貴族や金持ちが芸術家を育てたわけですが、今は特定の個人的な財産家は少なくなってきた。企業が芸術家を育てる時代に入ってきていると思います。この会議で話を聞いて、経済大国といわれている日本で、企業がメセナをやるのではないかと、資生堂の福原さんとかサントリーの佐治さん、セゾンの堤さんと話し合っ、今の企業メセナ協議会が生まれる下相談ができたわけです。私としては、最終的には、企業の利益から何パーセントとか、文化支援活動に充てるものは免税にしてみたら、積極的に資金集めをして、民間の意志でもって、本当に新しい芽を育てるということのためにお金を使える仕組みができないかと考えています。

日紫喜 最近、景気の後退がいられていますが。

塚本 ええ。そうすると、一時あればどマスコミも騒いでいたのに、このごろメセナという言葉も出なくなつてしまいました。私は、会社の物差しを単なる減収減益とするマスコラを京都でやるというような構想はお持ちでしょうか。

塚本 京都という町の将来を考えた場合、文化的ないろいろなものを集積していくべきだと思います。国際会議場も京都は一つしか持っていない、今度は迎賓館を持ち、あるいはコンサートホールを持ち、オペラハウスを持つとか、ですね。

芸術活動と企業のパートナーシップ

日紫喜 芸術活動と企業のより良いパートナーシップについてお伺いしたいと思います。オペラにしても、芸術活動には多額のお金が必要なのですが、芸術家と企業の意見が一致するなどと言うことはめつたにないことで、企業にバックアップしていただくについて意見の対立などもあると思うのですが。

塚本 これはもうまったく、いつまで経つてもあると思います。ただ、企業の文化活動というのはやはりトップの考え方が一番大事で、営業担当には営業活動をさせておいて、最終的にどういう配分で利益を還元していくかというのをトップが考えないと、文化活動の支援というものは盛んになっていかないと思うのですよ。

日紫喜 営業と文化支援を共存させるという

ミの論調はやめてもらいたいと思います。少しぐらい損をしてもいいのではないかと。もちろん企業ですから、従業員の生活もあるし、株主のこともありますが、利益を上げるのが原則ですが、企業の評価にこの物差しだけを使っている限り、そういう社会風潮の中では経営者は何とかして経営の引締めを行うわけです。そうすると、メセナみたいなものを一番にやめてしまおうというふうになるわけです。社会が、多少減収減益しようが必要で文化活動は依然として根強く続けているという企業こそ立派であると評価する時代が来なければならぬと思います。

と、あえず経理を締める締めるばかりでメセナなんてことを口にするくらに控えてくるような状況にあることは大変寂しいことだと思います。

日紫喜 どうしても目先のことになってしまふので、それをもつと長期的に展望することが必要ですね。

塚本 やはり文化活動というのは直接そのときの経営状況に振り回されるのではなく、根強くやるということが重要だと思います。

日紫喜 塚本会長御自身は、服飾以外にも芸術に関して興味をお持ちの分野というのはありますか。

ことですね。逆に、支援される側の芸術家なり団体なりに対してどうあつてほしいとか、望まれるものはありますか。

塚本 自分のところがやっている文化活動が一番いいのだと皆さんお考えになるのは当然ですが、やはりそれを取捨選択していくのが支援する側であることを理解していただきたいですね。例えば、私のところは仕事自体が女性を対象としたものが中心ですから、特に女性関係のものに重点をおいて対応しています。

日紫喜 それぞれの企業のそれぞれの方針に基づいた支援ということですね。

塚本 そうです。あとはバランスの問題ですね。それを壊してしまつて、文化が企業の活動の中の重点施策の中に入つてしまつてということはないです。ある程度ウエイトを高くやりますが、あくまで副であつて主体はやはり営業ですね。それを忘れてしまつたら経営者落第ですね。

日紫喜 本日は、企業の芸術支援の在り方について、幅広い観点からお話をいただき、誠にありがとうございました。貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。

特集 エイズ教育

◆巻頭言
エイズ教育に期待する 塩川優一

◆座談会
学校におけるエイズ教育を考える
(出席者) 竹井操 / 平山宗宏 / 福本絹子
南谷幹夫 / (司会) 近藤信司

◆論文
エイズ教育の専門家として 武田 敏

エイズ患者の検診に当たる 根岸昌功

医師の立場から エッセイ

◆エッセイ
草柳文恵

◆事例紹介
東京都教育委員会ほか

◆人・この道
東 三郎

◆教育・文化と地域づくり
長崎県郷ノ浦町

◆郷土に生きる教育家群像
香川県

編集後記

▽新年明けましておめでとうござい
います。今年も、「文部時報」が文
部省の総合広報誌として一層充実
するように、編集部一同頑張りま
すので御愛読のほどよろしくお願
いいたします。

▽暮れから正月にかけては、いろ
いろと伝統行事も多く日本の伝統
文化を意識することが多くなりま
すが、新年早々の今月号の特集は、
「芸術文化支援の新たな展開」とし
て、企業等による民間のメセナ活
動を取り上げています。

これは、折からの芸術文化への
国民的な関心の高まりと企業の社
会貢献熱に乗って様々なメセナ活
動が展開されている状況を受けて
の特集であります。

▽最近 新聞等においては、いわ
ゆるパブル崩壊に伴ってメセナ活
動の危機をうったえる意見も見ら
れますが、本特集では「事例紹介」
として、企業側からみた芸術文化

支援についての考え方や具体的
な取組も紹介しておりますので、我
が国の芸術文化支援策について考
える一助となれば幸いです。あり
ます。▽「教育・文化と地域づくり」で
は、北海道上湧別町の「オホーツ
ク国際漫画大賞」を取り上げてお
ります。これは今では日本ばかり
でなく世界からも作品が寄せられ
るほどになったという北国の漫画
によるユニークなおこしの紹介
であります。

編集幹事が、小学校低学年のこ
ろに見た漫画は、「鉄人28号」や
柔道少年の物語である「いがぐり
君」であり、四〇年経つ今でも記
憶に残っています。

漫画の力はほんとうに大きいと
思います。上湧別町の漫画も地元
の多くの少年少女たちにすばらし
い初夢を与えてくれたのではない
でしょうか。
(A・S)

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿を歓迎します。本誌を読んでのこ
感想、ご意見等をどしどしお寄せください。
◆投稿規定
①一件につき四〇〇字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号
を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
※文章を一部手直しさせていただくことがあります。
◆送り先
〒100 東京都千代田区霞が関三―二―二
文部省大臣官房政策課 「文部時報」編集部

文部省大臣官房政策課 「文部時報」編集部

- 著作権所有——文部省◎
- 発行所——株式会社 きょうせい
本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(営業所) 〒162 東京都新宿区西五軒町4-2
電話 03-3268-2141(代表) 振替口座 東京9-161番
- 印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成5年1月10日印刷
平成5年1月10日発行

定価500円(本体485円)(〒61円)
年間購読料6,000円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書
店にてお願いします。

本誌の掲載文のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。